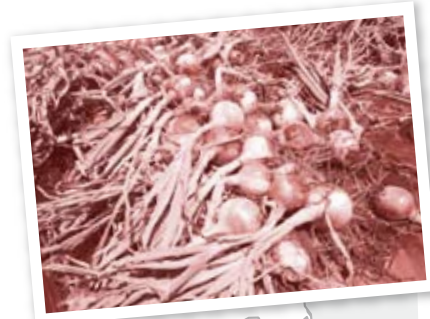
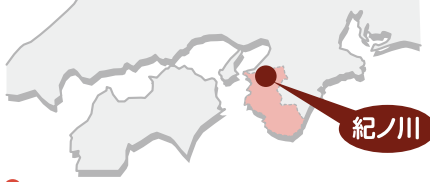


笑顔ひろがる 豊かなくらし
食の安全 子どもの未来 地球環境 守りたい

特集 環境月間プロジェクト 株式会社リバース工場見学……P4



安心・おいしい野菜・果物をずっとお届けしたい。



紀ノ川

日本の農業の担い手の問題は、危機的な状況に陥っているといえます。農業従事者は、2005年から22%減少しました。ますます高齢化が進み、単純にこのままの減少で計算すると18年後には0になっ てしまいます。原因は、十分な収入が得られないということがあります。今年には特に コメの価格が下がっていつそう深刻です。 夏の高温という異常気象もあります。近 年和歌山県でも、みかん栽培の適温とい われる平均気温16度を超え、17度以上にな る年が増えてきました。農業で暮らして いくには、担い手が育たない状況で、機械 が古くなったら、廃業を考えている方はた くさんいます。

地球温暖化で 農家事情が更に深刻

紀ノ川農業協同組合(以降紀ノ川農協)は、1976年に和歌山県那賀町農民組合を設 立して生協産直を開始。1983年に同組合を設立し、現在組合員が9003名です。 生協産直が事業の中心となり、みかんなど果物と野菜を主に出荷しています。また2001年より産地バスツアー 時におなじみのフアーマースマーカーケット・紀ノ川「ぶつ」の丘にて紀ノ川農協生産者が丹精込めて育てた 野菜・加工品も販売しています。

10月に行われた地区別総代学習会に紀ノ川農協から講師としてお迎えした宇田 組合長と29歳青年新規就農者の西さんに、最近の農業や紀ノ川農協の取り組みにつ いてお話をうかがいました。

1年前から農業を始めた 29歳の西さん

以前は京都でインターネット 関係の会社で働いていました が、もともと育てて作ったりす ることや、仕事と生活が一体となった職人 のような仕事に興味があつて、ずっと温め ていた気持ちを、思い切って実行するこ とにしました。

現在は1年間の「研修」を終え、独り立 ちして野菜の生産を始めました。「生協 向けにはブロッコリーを、その他にはキャ ベツや大根を作っていますが、今後は果物 をつくりたいと思っています。



生き活きと成長中の西さんとブロッコリー

総代学習会では期待の声をたくさんい ただきました。まず、プロとして野菜を見 れるようになりたいです。『どうやって裁 培したか』まで分かるようになるというこ とです。また、消費者と生産者が別々では なく、交流し、つながらないと何も始まら ないと思っています。みなさんの家 庭を明るくでき るお手伝いがで きればと思います。 と、真剣に情 熱を込めて農業の 魅力と共にまず技 術を身につけたいと抱負を語られました。 「これからの農業は課題山積ですが、ズバ リうまくやっていきますか?」の直球質問 にも、キツパリ「はい」と笑顔で返事があ り、「これからもおいしい野菜・果物づくりに がんばっていただきたいと思います。

農業は本当に奥深くて複雑 です。種をまいて水と肥料を やつたら自動的にできるとい うものでは全然ありません。土 は畑によって違い、人の真似を しているだけではだめで、自分 の頭で考えないとだめなんです。 紀ノ川農協の生産者はプロだ なって思います。広い圃場(畑)と 思っても、収穫後の収入を計算す ると、うーんやっつけていけるかなっ てると思うこともあります。失敗したら ゼロですし、その点シビアですね。

よどがわ生協の組合員さんへ

農家では、生協組合員さん からいただく「声カード」の、「良 かった」または、「そうでないご意 見にも、励まされながら生産してい ます。良いも のを作ろうという意欲の源の一つで、『お金でな い報酬』とも言われています。一方では、若い新 しい就農者がこれから農業を続けていけるだけ の収入も現実的には必要です。消費者のよりよ い商品を、より安い価格でという要望にも応えな がら、どのように今後の提携事業をすすめていく かを、一緒に考えることが大切になっています。

紀ノ川農協 宇田組合長より

紀ノ川農協の4つの基本的課題

- 1 安全安心と おいしさの追求**
農業や肥料、栽培方法を圃場(畑)ごとに登録管理して います。またミカンの糖度は全量、光センサーで測って品質の ばらつきを抑えています。
- 3 地産地消と 交流、協働の発展**
毎年3500人ほどの消費者の方に、収穫体験・作業体験に きていただいています。よどがわ生協からも有機たまねぎの 体験を行っていただきました。ため池や水路など地域全体を 見てもらうことも大切にしています。

- 2 地域の環境に やさしい農業発展**
地域のなかで行政とも連携し、「有機JAS」や「特別栽培」 など、県の認証も受けながら、環境保全型農業を推進して います。有機農業をつうじ、自然との共生や、農の価値を広め、 生命尊重の社会を築くことをめざしています。
- 4 新規就農者の育成を 課題にすすめています**
雇用可能な経営規模に拡大し、働きながら研修できるよ うにし、また環境保全型農業を推進することで、農業の魅力 をつくります。農家の後継ぎや、まったくの新しい就農者が 増えています。担い手育成の芽がではじめました。



農業の担い手を 育てています



左記QRコードで、eフレンズやよどがわ生協からのご案内などの情報へ簡単にアクセスできます。

資料請求もできるよ!